

【ステップ1:津波からにげるために知っておくこと】

説明

津波がおこるしくみ

- 地震で海の底が動いて、その上の海水をおし上げることで津波がおこります。

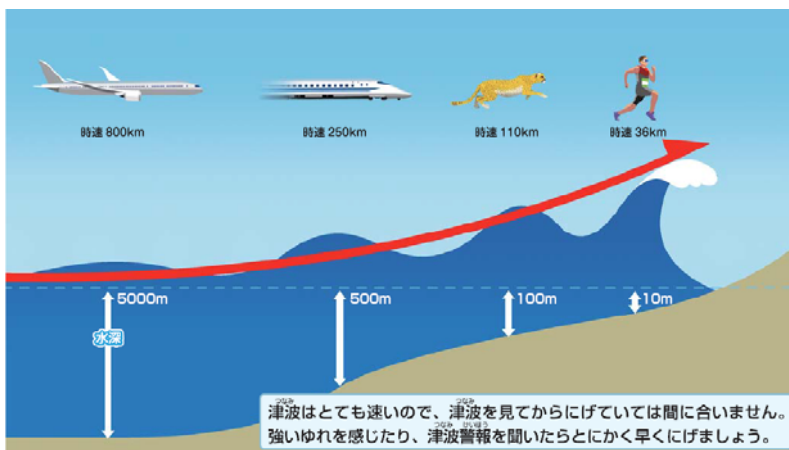


Check!

津波の力はとても強いので、家や車をあっという間におしながしてしまいます。

説明

津波の高さ、はやさ



Check!

おそいといっても100m走のオリンピック選手くらいのスピードがあります。津波を見てから走って逃げてもまにあいません。

- 津波は、海が深いところではジェット機ぐらいの速さです。
- 海が浅くなる海岸近くではおそくなるかわりに、波が急に高くなります。
- 津波が来る可能性があるときは、絶対に海の様子を見に行ったりしないよう指導する

注) 資料中の赤字や赤○は教師用の回答や補足。配布用では削除。

【ステップ1:津波からにげるために知っておくこと】

説明

津波は低いところをおそう

- ▶ 津波は低いところをおそいます。山の上の高台など、高いところに逃げましょう。
- ▶ 川の近くでは、津波が来たわって陸のずっと奥のほうまでおそうこともあるので、川から離れた高いところ^{はな}に逃げましょう。



Check!

これらのマークをみたことがありますか。


 つなみひなんばしょ
津波避難場所

 つなみひなん
津波避難ビル

 つなみちゅうい
津波注意

- ▶ 津波が来るかもしれないところでは、避難^{ひなん}するところや、津波が来るとあぶないところのマークがあります。

津波の避難では高台が安全だが、海岸近くで、付近に高台がない場所などでは、津波避難ビルや津波避難タワーが指定されている場合がある。海の近くでは、安全、危険な場所の確認を指導する。

【ステップ1:津波からにげるために知っておくこと】

説明

津波はくりかえしおそう

- はじめに来た波より、あとから来る波のほうが大きいことがあります。
- 津波警報つなみけいほうがでているあいだは、避難ひなんをつづけましょう。



何時間もあとからさらに大きな津波がくることもあるので、安全な場所から離れないよう指導する。

説明

大きなゆれを感じたらすぐに避難ひなん

- 海の近くで大きなゆれを感じたら、すぐに避難ひなんしましょう。
- ゆれが小さくても、大きな津波がくることがあります。



Check!

つなみけいほう

津波警報より早く津波がくる
こともあります。

避難ひなんするかどうかもよって
いる時間はありません。



【ステップ1:津波からにげるために知っておくこと】

説明

つなみけいほう つなみちゅういほう
津波警報や、津波注意報とは

- ▶ 津波が来て、家や車が流されたり、船がひっくりかえったりするようなことがおきそうな時に、おおつなみけいほう つなみけいほう大津波警報、津波警報や津波注意報つなみちゅういほうが出ます。
- ▶ おおつなみけいほう つなみけいほう大津波警報、津波警報を見たり聞いたりしたときは、すぐに高いところつなみけいほうににげてください。



Check!

つなみけいほう
津波警報がでたら、
すぐに避難ひなん！



おおつなみけいほう
大津波警報

陸まで津波がおそって、物や人がまきこまれてしまったりするかもしれません。

つなみけいほう
津波警報

海や川の近くににいるひとは、すぐに津波のこない高いところにひなんしてください。

つなみちゅういほう
津波注意報

海の中や海岸にいるときは、すぐに海からはなれてください。かいすいよく海水浴や釣りつはあぶないのでやらないでください。

(このあとは、おおつなみけいほう大津波警報、つなみけいほう津波警報をまとめて、つなみけいほう津波警報とよんでいます)

【ステップ2:津波からにげるには】

1

つなみけいほう

津波警報が発表された時の行動

大きなゆれを感じたあと、「津波警報が発表されました。」という声が聞こえてきました。丸でかこんだ図の真ん中にいる人は、どこに逃げるのが正しいでしょうか。○×を入れてください。

- ① (×) 学校の校舎こうしゃの高いところに逃げる
- ② (○) 山の上のほうの広場など、高いところに逃げる
- ③ (×) 高いところに行くには時間がかかるので、平らなところを海からはなれるように逃げる
- ④ (○) 津波避難ビルつなみひなんに逃げる

津波は低いところを襲うので、津波警報が出たら、高いところに逃げる。

津波は局所的に高くなることもあるので、より高いところに逃げられるところが望ましい。

この場合、学校の校舎は津波避難場所に指定されていない。

すぐ近いところに津波避難場所の高台や津波避難ビルがある。



【ステップ2:津波からにげるには】

2

つなみけいほう

津波警報が発表された時の行動

地震のゆれをあまり感じませんでした。が、海岸で遊んでいる時に、「津波警報が発表されました。」という声がスピーカーから聞こえました。どのような行動をとればよいでしょうか。

○×を入れてください。

- (○) すぐに高台や津波避難ビルなどに逃げる
- (×) 津波がくるかどうかわからないので、津波がくるのが見えたら逃げる
- (×) 大きな地震でなければ津波はこないで、逃げなくともよい

1896年の明治三陸地震のときには、震度3程度で大きな津波が来た。

地震のゆれを感じなくても、大きな津波がおこることがある。

津波を見てから避難しては間に合わないのので、津波警報を見たり聞いたりしたら、すぐににげるのが大切。



【ステップ2:津波からにげるには】

3

つなみけいほう

津波警報が発表された時の行動



Check!

海だけではありません

つなみけいほう
津波警報が発表された時に、海から近い川のそばにいたら、なぜ川からはなれて高いところに逃げなければならないのでしょうか。

➤ 津波が川を

(さかのぼってくる)

ことがあるから。

東北地方太平洋沖地震では、津波は北上川を岩手県境付近まで遡った。

津波警報が出たら、すぐに川から離れた高いところに逃げるようにする。



Check!

津波警報がまにあわないときもあります

地震のおきたところが陸に近いと、津波警報がまにあわず、津波のほうが早く陸に来ることがあります。海の近くで強いゆれをかんじたら、すぐに避難してください。

気象庁では地震発生後約3分で津波警報を発表するが、震源が陸地に近い地震の場合は津波警報が間に合わない場合がある。

海岸で強いゆれを感じた場合はすぐに避難をはじめよう指導する。

【ステップ2:津波からにげるには】

4 津波が来たあとの行動

高台に避難^{ひなん}していたら津波が来ましたが、あまり高くはなく、間もなく波はひいていきました。どのような行動をとればよいでしょうか。○×を入れてください。

- (○) もっと高い波がくるかもしれないので、津波警報^{つなみけいほう}が発表されている間は避難^{ひなん}しているところからはなれない
- (×) 一度津波が来たらもう来ないので、家のある低いところに帰る
- (×) 海のようにすを見ながら、津波が来たらまた避難^{ひなん}すればよいので、家のある低いところに帰る

津波はくりかえしやってくる。

波が海岸の反射で重なったりして、後から来た津波のほうが大きくなる場合もある。

津波警報が解除されるまでは、高台などの避難場所から離れない。

津波の速さは速いので、津波を見てから逃げたのでは間に合わない。

